

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587041301	科目番号	05870413
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(市民運動・NGOと核兵器廃絶)		
編集担当教員	中村 桂子		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 桂子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 桂子, 梅林 宏道		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生(クラス等)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス	nakamurak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター (RECNA)		
担当教員TEL	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー	毎週木曜14:40-16:00		
授業の概要及び位置づけ	このクラスでは、核兵器をめぐる日本と世界の動きの中で、市民運動やNGOがどのような役割を担ってきたのかを学びます。民主主義における市民社会の役割と位置付けを概観したのちに、過去と現在におけるいくつかの特徴的な市民・NGOの活動の例を取り上げ、その背後の理論、成果、残る課題等について検証します。核軍縮に限らず、さまざまな国際問題に関心のある学生、将来国際機関やNGOで働くことを視野に入れている学生、一人の人間として社会に対して何ができるのかを模索したい学生、いろいろな問題関心のある学生に対応した授業となっています。		
授業到達目標	核兵器をめぐる市民運動とNGOの動きについて全体的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分で考え、それを説明できるようになることを期待します。		
授業方法(学習指導法)	授業は担当教員による講義に加え、ゲストスピーカーによる講義やグループ発表、ディスカッションなどを組み合わせたものになります。講義であっても、リアクションペーパーなどを通じて、学生が主体的に自分の意見を組み立て、表現する機会を持てるようにします。また、授業の中では、パワーポイントスライド、写真、映像などのさまざまなビジュアルを通して、学生が最新の世界の動きに触れるとともに、そのダイナミズムを感じ取られるような授業を行います。実際の活動の当事者を招いて話を聞くことも追求します。受講人数にもよりますが、少人数グループに分かれての調査、その報告及びグループディスカッションも予定します。		
	講義は、「市民」「市民社会」「NGO」とは何かといった概念整理から始め、民主主義体制における市民社会の役割を歴史的観点から概観します。その中では、特定の兵器に関する禁止条約の策定において市民・NGOが担ってきた役割についても学びます。核兵器をめぐるのは、その誕生から現在に至るまでの歴史の中で、国内外の市民・NGOがどのような運動を展開してきたか、その歴史的背景、活動における理念や考え方、実際の活動、社会的・政治的影響と成果、残る課題等について具体的事例を挙げながら検証していきます。並行して、グループ単位でのNGO・市民運動の活動に関する調査を行い、その結果を発表するとともに意見交換を行います。		

授業内容	回 内容
	1 授業の進め方について 「市民社会」とは何か
	2 市民社会は世界を変えたのか ――対人地雷、クラスター弾禁止の例から
	3 原水爆禁止運動の誕生と発展
	4 広島・長崎の被爆者の運動
	5 核保有国での反核運動
	6 非核兵器地帯をめぐる運動
	7 核兵器廃絶に向けた自治体の取り組み
	8 グループ発表①
	9 世界法廷運動、ICJ勧告とその後
	10 核兵器の非合法化をめざして
	11 若者による運動
	12 日本の役割とNGO
	13 グループ発表②
	14 グループ発表③
	15 まとめ：私たちにできることは？
	16
キーワード	核兵器、市民、市民社会、NGO
教科書・教材・参考書	
成績評価の方法・基準等	出席点及び講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末のレポートが40%です。
受講要件（履修条件）	全回出席が原則。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	核兵器廃絶は国や国際機関だけが取り組んでいる課題ではありません。この授業をきっかけに、核兵器の問題を一人一人の問題としてとらえ、今の世界を少しでも良くするために個人やグループとしてあるいは地域として何ができるか、を考えていきたいと思えます。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」  
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587041701	科目番号	05870417
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(被ばく者と医療)		
編集担当教員	三根 眞理子		
授業担当教員名(科目責任者)	三根 眞理子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三根 眞理子, 中島 正洋, 宮崎 泰司, 赤星 正純		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生(クラス等)	2年次, 経済, 教育, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス	mmine@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部原研情報室		
担当教員TEL	095-819-7127		
担当教員オフィスアワー	火曜日 17:00~19:00		
授業の概要及び位置づけ	原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 原爆被ばくの人体影響を理解できる。</li> <li>② 原爆被爆者の健康調査について理解できる。</li> <li>③ 原爆被災時の救護活動について理解できる。</li> </ol>		
授業方法(学習指導法)	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業内容	回	内容	
	1	三根眞理子：原爆と医療の概要	
	2	三根眞理子：原爆直後の救護活動（1）	
	3	宮崎泰司：原爆と血液疾患	
	4	宮崎泰司：被ばく者への医療	
	5	三根眞理子：原爆直後の救護活動（2）	
	6	三根眞理子：原爆直後の人体影響調査（1）	
	7	中島正洋：放射線被ばく急性障害	
	8	中島正洋：放射線とがん	
	9	三根眞理子：原爆直後の人体影響調査（2）	
	10	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（1）	
	11	赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（2）	
	12	赤星正純：原爆被爆者の追跡（臨床的経過）	

	13	三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）
	14	三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学）
	15	三根真理子：まとめ
	16	
キーワード	原爆被ばく者、疫学調査、放射線の人体影響	
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。	
成績評価の方法・基準等	全15回の課題レポートの平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお、講義の順番は変更になる場合もある。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4																				
開講期間																							
必修選択	選択	単位数	2.0																				
時間割コード	20140587042101	科目番号	05870421																				
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(核兵器廃絶と教育)																						
編集担当教員	全 炳徳																						
授業担当教員名(科目責任者)	全 炳徳																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	全 炳徳, 高瀬 毅, 桐谷 多恵子, 山口 剛史																						
科目分類	全学モジュールII科目																						
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																				
教室	[教養A棟]A-12																						
対象学生 (クラス等)																							
担当教員Eメールアドレス	bdjun@nagasaki-u.ac.jp																						
担当教員研究室	教育学部本館、309号室																						
担当教員TEL	095-819-2324																						
担当教員オフィスアワー	月10:30-14:20																						
授業の概要及び位置づけ	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器 および被ばく体験等の歴史的事実の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「教育の観点」から考える。																						
授業到達目標	歴史的な負の遺産をどう教育していくのかについて、長崎、広島、沖縄を題材として取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特色や教材のあり方について学ぶ。学んだ内容に基づいて受講生自らの教材を作る。授業教材は現地調査やディスカッション等を経て、小中学生の授業教材として作り上げる。作成した教材は 希望者を中心に、学校現場にて実践を行う。																						
授業方法 (学習指導法)	長崎、広島、沖縄についての負の遺産や教育関連の専門家による地域的特性などを講義。更には、これらについての事実確認の専門家の講義。これを受けて、受講生たち自らが作成した平和問題と関連した授業教材を開発し実践する場を提供する。																						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション：全</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）：山口、全</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）：山口、全</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>核兵器廃絶と教育（今までの講義を振り返り）：全</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>核兵器廃絶についての教材開発：全 (グループ活動)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	オリエンテーション：全	2	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全	3	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全	4	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）：山口、全	5	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）：山口、全	6	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全	7	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全	8	核兵器廃絶と教育（今までの講義を振り返り）：全	9	核兵器廃絶についての教材開発：全 (グループ活動)
回	内容																						
1	オリエンテーション：全																						
2	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全																						
3	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全																						
4	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）：山口、全																						
5	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）：山口、全																						
6	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全																						
7	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全																						
8	核兵器廃絶と教育（今までの講義を振り返り）：全																						
9	核兵器廃絶についての教材開発：全 (グループ活動)																						

	10	核兵器廃絶についての模擬授業：全
	11	平和教育についての教材開発：全 (グループ活動)
	12	平和教育についての模擬授業：全
	13	平和教育教材開発1 (グループ活動)：全
	14	平和教育教材開発2 (グループ活動)：全
	15	最終模擬授業：全
	16	最終レポート提出
キーワード	核兵器廃絶、平和と教育	
教科書・教材・参考書	講義時に提示	
成績評価の方法・基準等	<p>本講義は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回レポートの評価点</li> <li>2. 教材開発と発表の内容評価点</li> <li>3. 模擬授業の評価点</li> <li>4. 最終レポートの評価点</li> </ol> <p>を合計して評価する。</p>	
受講要件 (履修条件)	平和に関連した教育の興味・関心のある学生 初等・中等教育に関心のある学生	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587042501	科目番号	05870425
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(文学・芸術と核兵器)		
編集担当教員	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 山上 徹二郎, 赤木 幹子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	2年次, 経済, 教育, 薬学, 水産		
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー	水曜日3・4限およびアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。		
授業到達目標	様々な文学・芸術と核兵器の存在との関係について、①現状を理解し、②その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、③それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
授業方法(学習指導法)	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学びながら、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。さらに積極的にLACS等も活用する予定です。また、講師として、現役のプロデューサー、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		
	様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。		
	回	内容	
	1	はじめに：授業の進め方(広瀬 訓) ①文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感性によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」	
	2	②他人に伝えるということ(赤木かんこ) ・「文章」とは何か ・事実の調べ方 ・他人に伝わる文章の組み立て方 ・児童文学とは何か	



授業内容	3	③原爆と映画：その1（山上徹二郎） ・「映画」というメディアの特徴と影響について	
	4	④戦争と平和の文学と芸術（広瀬 訓） ・文学と絵本が描く戦争と平和 ・戦前の日本の文学とコミック「少年倶楽部」と「のらくろ」	
	5	⑤戦争児童文学は何を伝えてきたか（赤木かんこ） ・外国作品 ・日本の作品	
	6	⑥コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓） ・何を伝えなかったのか ・メッセージとテクニク	
	7	⑦原爆と映画：その2（山上徹二郎） ・何を、何故、どう描くか	
	8	⑧コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓） ・感情的表現と理論的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）	
	9	⑨核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・外国作品 ・日本の作品 プラス資料の探し方、調べ方	
	10	⑩芸術の持つ力（広瀬 訓） ・「風が吹くとき」のインパクト	
	11	⑫児童文学と広島・長崎（赤木かんこ） ・児童文学の中の原爆 ・広島・長崎の児童文学	
	12	⑪メディアの功罪（広瀬 訓） ・「戦うマンガ」 ・ジャパン・アニメバッシング ・「売る」、「煽る」、「考える」	
	13	⑬新しいメディア（広瀬） ・デジタルメディアと核兵器 ・NagasakiArchive という挑戦	
	14	⑭原子力発電と児童文学（広瀬） ・現在の問題にどう向き合うか ・3/11後の児童文学	
	15	⑮まとめ（広瀬 訓）	
	16	期末レポート提出	
	キーワード	核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理	
	教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しません。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。  長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版	
成績評価の方法・基準等	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が60%、期末の成果物（通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています）が40%です。		
受講要件（履修条件）			
備考（URL）			
	文学、芸術は、講義で説明を聞いているだけで理解できるものではありません。できるだけ積		



学生へのメッセージ

極的に戦争、平和、核兵器をテーマとした映画、ドラマ、コミック、絵本、小説等を自分で見たり、読んだりするように努めてください。



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587042901	科目番号	05870429
授業科目名	●核兵器のない世界を目指してII(核軍縮の法と政治)		
編集担当教員	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 西田 充		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生(クラス等)	2年次生、教経薬水		
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター 2階		
担当教員TEL	内線 2204		
担当教員オフィスアワー	水曜3、4限もしくはアポイントメントによる		
授業の概要及び位置づけ	昨年度モジュールIで学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解の上に、核兵器をめぐる国際政治と国際法の、より具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて考察することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができればよいと考えています。		
授業到達目標	具体的な到達目標としては、①核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を正確に理解する、②核兵器をめぐる現実を理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、③核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。		
授業方法(学習指導法)	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせる授業にする予定です。できるだけ毎回アクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。また、実際に外務省で軍縮交渉を担当している方を客員として招聘し、交渉の現実について、生の声を聴くことも予定しています。		
	回	内容	
	1	はじめてに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か	
	2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観	
		③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」	

授業内容	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「軍縮」とは何か</li> <li>・「軍備管理」とは何か</li> <li>・「不拡散」とは何か</li> </ul>	
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>④核兵器の削減</li> <li>・国際社会の取組</li> <li>・二国間の取組</li> <li>・地域的取組</li> </ul>	
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤核不拡散条約（NPT）：その1</li> <li>・成立の背景と経過</li> <li>・内容と特徴</li> </ul>	
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥核不拡散条約（NPT）：その2</li> <li>・1995延長会議</li> <li>・再検討プロセス</li> <li>・現状と問題点</li> </ul>	
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦核実験の禁止</li> <li>・部分的核実験禁止条約（PTBT）</li> <li>・包括的核実験禁止条約（CTBT）</li> </ul>	
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑧非核兵器地帯</li> <li>・非核兵器地帯とは何か</li> <li>・世界の非核兵器地帯</li> <li>・北東アジア非核兵器地帯提案</li> </ul>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨新しい核軍縮の試み</li> <li>・兵器用核分裂性物質生産禁止条約（カットオフ）</li> <li>・核兵器不使用条約</li> <li>・核兵器禁止条約</li> </ul>	
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑩核軍縮と国際人道法</li> <li>・国際人道法とは何か</li> <li>・核兵器は国際法違反か</li> </ul>	
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑪核軍縮交渉の舞台</li> <li>・ジュネーブ軍縮会議（CD）</li> <li>・国連総会および第一委員会</li> <li>・国連軍縮特別総会（SSOD）</li> </ul>	
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑫核軍縮交渉の現状と問題点（予定）</li> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>	
	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑬核軍縮交渉の現状と問題点（予定）</li> <li>・西田充客員準教授</li> </ul>	
	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑭核軍縮交渉と世論</li> <li>・核軍縮交渉と市民</li> <li>・私たちにできること</li> </ul>	
	15	⑮まとめ	
	16	期末レポート提出	
	キーワード	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法	
	教科書・教材・参考書	<p>テキスト：特に指定しません。</p> <p>参考書：黒澤 満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂  黒澤 満 『核軍縮入門』 信山社  黒澤 満 『核軍縮と世界平和』 信山社  藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社</p> <p>上記以外に、RECNAのホームページ、特に「市民データベース」には核軍縮に関する主要な情報がまとめられているので、適宜参照してください。</p>	
成績評価の方法・基準等	出席および講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の40%、期末のレポートが60%になります。		
受講要件（履修条件）			
備考（URL）	<a href="http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp">http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp</a>		
	※講義の進度等により、多少予定が変更になる場合があります。		

学生へのメッセージ

※授業の中だけでなく、教室の外でも核軍縮に関する情報やニュースの収集のような予習を各自が進めることを期待しています。積極的に問題意識を持って授業に臨むことを期待しています。



---

Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.